

第 1 回 多職種連携研修企画ワーキング レポート

多職種連携を推進させていくために、どんな研修が必要なのか話し合いました。

《話し合いの内容》

- 多職種で事例検討を行うことで、お互いの役割が理解でき、顔の見える関係を築くことができるのではないか。←多数のご提案をいただきました。
- 多職種連携に足りないことは、**多職種間の相互理解**。医療職は介護・福祉制度、介護職は疾患等の医療知識の不足を感じている。**各職種向けの資質向上のための研修**もあったほうが良い。

例えば…ケアマネのための高齢者栄養アセスメントや評価、ヘルパーのためのリハ職による身体介助講座、リハ職のための地域包括ケアシステムの理解など。



話し合いの結果、今年度の多職種連携研修の案がまとまりました！

- 多職種合同事例検討会 年 1 回（12 月頃）

「低栄養・嚥下機能」をテーマに、多職種で事例検討
新八千代病院の摂食嚥下リハビリチームに講師を打診

- 各職種向けの研修会 年 1～3 回

1 回目：9 月末に実施予定

テーマ：「地域包括ケアシステム」と「自立支援に向けたアセスメントの視点」
対象は、ケアマネとリハ職。講師は県リハビリテーションセンターの田中先生。
2 回目以降のテーマ、対象職種については第 2 回WGにて検討予定。



WGの今後の活動予定

8月25日	研修WG 2 回目（第 1 回研修会の企画打ち合わせ）
9月下旬	第 1 回 多職種連携研修会 & 参加者交流会
11月	研修WG 3 回目（第 2 回研修会 事例検討プレ実施）
12月	第 2 回 多職種連携研修会 「栄養・嚥下機能に課題のあるケース」の事例検討
H30 年 1 月	研修WG 4 回目（第 2 回研修会の検証、次年度方針）
2月	
3月	

第2回 多職種連携研修企画ワーキング レポート

2017. 8. 25(金)

前回話し合った年間研修計画案をもとに、具体的な内容について検討しました。

研修会の目的には、①研修会を活用した多職種連携の促進（顔の見える関係性づくり）、②各職種のスキルアップを図ることなどがあります。これまでの研修では、顔の見える関係づくりを優先した企画が多かったのですが、今年度は各職種のスキルアップを目的とした研修会についても取り組むことが決まりました。

<平成29年度 在宅医療・介護連携研修会 年間予定>

	時期	対象・内容
第1回	9月	対象：リハビリ職とケアマネジャー 内容：「地域で求められるリハ職の役割」 & 「ケアマネジメントに役立つ予後予測の視点」
第2回	12月	対象：医療職、介護職 内容：栄養状態や嚥下機能に課題のある事例検討を通して、多職種連携のあり方について学ぶ。
第3回	1月	対象：医療職、介護職 内容：「高齢者のうつ」「認知症」について理解を深める。
第4回	2月	対象：介護職向け 内容：介護職に基礎的な医療知識を学ぶ機会を提供する。 「在宅酸素療法」や「呼吸器疾患」（予定）

<第2回研修会で行う事例検討について>

- ・講師は、新八千代病院で摂食・嚥下リハビリに取り組んでいる言語聴覚士を中心としたリハビリチームを予定しています。
- ・当日のグループワーク進行役をワーキングメンバーが担うにあたり、11月に打ち合わせを行い、グループワークの進め方等を確認します。



～次回ワーキング日程～

平成29年11月10日

時間：午前10時～

会場：保健福祉センター3階

団体活動室3